

FREE

ご自由にお持ちください。

No.842

2023 November

11

岐阜県の森林・林業

も り
森林のたより



News of the forest



フォレストワーカー研修
ベテラン技術者から指導を受ける新規参入者



編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会

E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp

<http://www.g-forestry.or.jp> (公社)岐阜県山林協会の情報をご覧ください。

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
11月11日(土)~ 11月12日(日)	オープンキャンパスin翔楓祭 (森林文化アカデミー学園祭)	岐阜県立森林文化アカデミーは、林業、森林環境教育、木造建築、木工の分野で活躍できる人材を育成している専修学校です。入学を検討されている方を対象に、オープンキャンパスを開催します。 ●時間：10:00~16:00 ●内容：学校紹介、教員との面談、入試過去問の配布等 ●参加費：無料	森林文化アカデミー (美濃市曾代 88) 森林文化アカデミー TEL:0575-35-2525
11月18日(土)	岐阜県伐木安全技術評価会 2023	新規、中堅技術者によるチェーンソー操作の安全技術レベルを評価する大会を開催する。 ●時間：9:00~16:00 ●定員：ピギナークラス 10名、 プロフェッショナルクラス 10名 見学者 80名	美濃市曾代 台山ヒロック 森林経営課 TEL:058-272-8491
12月8日(金)	狩猟免許試験 (第一種銃猟、第二種銃猟)	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●時間：9:30~17:00 ●申込：11/2~11/17 ※事前に申請書類等の提出が必要です。 詳しくは右記にお問い合わせください。	恵那総合庁舎大会議室 各地域を所管する県事務所等、または 環境生活政策課 TEL:058-272-8231



目次 Contents

イベントカレンダー(一般向け) 2

企業との協働による森林づくり 3

「岐阜県緑化功労者表彰」及び
「岐阜県林業経営コンクール」の表彰式を開催！ 3

「脱炭素社会ぎふ」・森林吸収量認証制度(G-クレジット)制度が
令和5年11月から始まります！ 4

シリーズ「ぎふの木」使います！(2) 6

「ぎふ森のある暮らし」のお便り(1) 7

木材産業DXアドバイザー派遣事業のご紹介 8

保安林制度の概要 8

地域の「私」の中にある愛 9

山の歳時記(219) ウスタビガ 10

山のおしゃまむし(388) 10

―新種のソウムシ発見！そんなこともあったな― 11

シリーズ「森林・環境税」で緑豊かな清流の国ぎふづくり(6) 12

森林と人を活かす知恵(130) 13

ぎふ木遊館通信 14

morinos 連携プログラム紹介!! 15

木の香るぎふの施設(128) 中津川市立福岡小学校 16

研究コーナー 国産黒トリユフを接種したコナラを
植栽して七年目の状況 17

普及コーナー 可茂地域における広葉樹林整備について 18

森林技術開発・支援センター きのご通信(2) 19

国有林の現場から(85) 小林式誘引捕獲法の現地検討会を開催 20

林業者向けお知らせ 21

市況 22



表紙 ●「(公社)岐阜県森林公社 森のジョブステーションぎふ」が実施するフォレストワーカー1年目集合研修の実施状況



企業との協働による森林づくり



県では、県民協働による森林づくりの一環として、「企業との協働による森林づくり」を推進しています。
令和5年4月から新たに2件の森林づくり協定を締結しました。これにより、協定締結件数は32件（うち4件は期間終了）となりました。

31

ぎふくじり ちゅうおうかたん 岐阜久尻 中央可鍛の森

令和5年6月14日に、中央可鍛工業株式会社（名古屋市）、土岐市及び岐阜県の3者で、森林づくり協定を締結しました。
中央可鍛工業株式会社は、国の目標より10年早い、2040年の「カーボンニュートラル」の実現を宣言しています。日常行動の改善や技術革新などによる二酸化炭素の排出削減や、森林の整備などに取り組んでいきます。

- 場 所：土岐市泉町久尻地内／土岐市有林（面積2.37ha）
- 森の名称：「岐阜久尻 中央可鍛の森」
- 協定期間：令和5年6月14日～令和10年3月31日（5年）
- 主な活動：苗木の育成（苗木の修復、下刈り）等

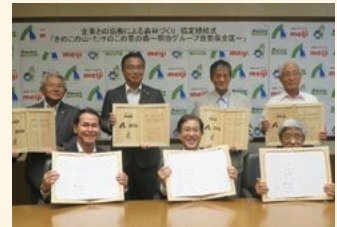


32

きのこの山・たけのこの里の森 ～明治グループ自然保全区～

令和5年7月21日に、明治ホールディングス株式会社（東京都中央区）、関市、南武芸財産区、東武芸財産区、広見財産区、中濃森林組合及び岐阜県の7者で、森林づくり協定を締結しました。
明治ホールディングス株式会社は、製品原料として使用する水を100%還元する「ウォーターニュートラル」などの目標を掲げています。「ウォーターニュートラル」の実現に向けた取組みの一つとして、森林づくり活動を実施し、森林の水源かん養機能の維持・向上に寄与していきます。

- 場 所：関市武芸川町谷口地内／財産区有林（面積15.00ha）
- 森の名称：「きのこの山・たけのこの里の森～明治グループ自然保全区～」
- 協定期間：令和5年7月21日～令和10年3月31日（5年）
- 主な活動：植栽、下刈り、歩道整備 等



●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-8255 森林活用推進課 緑化推進係まで

「岐阜県緑化功労者表彰」及び「岐阜県林業経営コンクール」の表彰式を開催！

県では、多年にわたり緑化運動の推進や緑化運動に関する青少年の育成指導等に貢献した個人・団体を「岐阜県緑化功労者」として、また、適正な森林管理や、林業技術、経営の改善などを行う個人・団体を「岐阜県林業経営コンクール」において、毎年表彰しています。

このたび、4者（個人・団体）が表彰され、10月6日に岐阜県庁で表彰式を開催しました。



【写真左から】桂川 一二さん（川上まちづくり推進協議会会長）
細江 忠光さん、久松林政部長、石井 信八さん
石井 辰規さん、遠藤 政敏さん（福岡財産区議会議長）

【被表彰者】

- 岐阜県緑化功労者表彰： 細江 忠光さん（下呂市）、川上まちづくり推進協議会（中津川市）
- 岐阜県林業経営コンクール： 石井 信八さん・石井 辰規さん（八百津町）、福岡財産区（中津川市）

●岐阜県緑化功労者表彰について、詳しい内容を知りたい方は TEL058-272-8255 森林活用推進課緑化推進係まで
●岐阜県林業経営コンクールについて、詳しい内容を知りたい方は TEL058-272-8491 森林経営課スマート林業推進係まで

認証制度（Gークレジット制度）が から始まります！



① クレジットをつくる

対象となる
森林

平成24（2012）年度以降に「岐阜県環境保全林整備事業」で施業が行われた岐阜県内の森林（森林経営計画策定済または策定予定の森林を除く）

1年目

プロジェクト登録

審査・登録費用
無料

対象となる森林を登録（プロジェクトは原則、市町村単位で登録）



間伐など施業や森林の巡視

2年目以降

クレジット認証・発行（認証対象期間：8年間）

検証・認証費用
無料

前年度までの森林の成長量を年度単位で認証



② クレジットを売る／買う

- クレジットの取引は、売りたい方（林業事業者等）と買いたい方（企業等）との相対取引（直接取引）が基本です。
- クレジットの情報は、Gークレジット制度運営事務局のウェブサイトに掲載します。

令和6年度
本格スタート

- 1t-CO2単位で購入できます。
- 県内外のどなたでも購入可能です。
- 転売はできません。
(有効期限はクレジット購入から5年)

③ クレジットを使う

○カーボン・オフセット

- 事業活動や、会議・イベント開催で排出される温室効果ガスをオフセット
- 製造などの過程で排出される温室効果ガスをオフセットした製品やサービス

○地域貢献

- 事業所や工場等の所在地域や、その上流域にある県内の森林づくりを応援



※国の温対法の報告には使用できません。

問い合わせ先 Gークレジット制度運営事務局

【受付時間】平日（月～金）9:00～17:00

TEL:058-201-5112 / E-mail:gcredit-gifu@g-moriren.or.jp



事務局Webサイト

【制度管理者】岐阜県 林政部 森林活用推進課 森林吸収源対策室 TEL:058-272-1111内線(4346)



G-クレジット制度

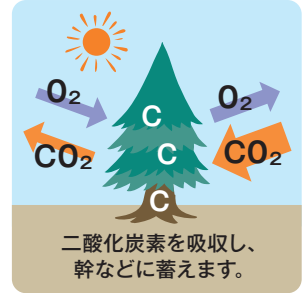
「脱炭素社会ぎふ」・森林吸収量 令和5年11月

制度の概要

「脱炭素社会ぎふ」・森林吸収量認証制度（G-クレジット制度）とは、岐阜県独自の森林由来のカーボン・クレジット^(※1)制度です。県内の適切に管理された森林による二酸化炭素吸収量を「クレジット」として県が認証します。

制度の目的

クレジットの取引で得られた資金を活用し、健全で豊かな森林づくりを進めることで、森林の二酸化炭素吸収量を維持・増大させるとともに、社会全体に環境保全活動が広がることで「脱炭素社会ぎふ」^(※2)の実現を目指しています。



■クレジット創出の意義（山側のメリット）

①二酸化炭素吸収量の価値化

岐阜県の豊富な森林による二酸化炭素吸収量をクレジットとして価値化

②山元への資金還元

林業事業者、森林所有者の森林整備に対する意欲・関心の向上

つくりたい方

クレジット売却

「脱炭素社会ぎふ」の実現に貢献

クレジット購入

取引したい方

■クレジット購入の意義（企業側のメリット）

①企業価値の向上

外部資金や人材の確保、取引先との関係構築、他社の製品やサービスとの差別化

②地域貢献

県内各地の森林づくりを応援、地域密着型の貢献

③脱炭素・SDGs等への取組み

温室効果ガス排出量のオフセット（カーボン・オフセット^(※3)）、CSR（企業の社会的責任）

使いたい方

二酸化炭素の吸収量と排出量の目安



岐阜県内の60年生ヒノキ人工林1haの二酸化炭素吸収量は年間約4.3t-CO₂



自家用車1台（1万km/年、1人乗車）の二酸化炭素排出量は年間約1.3t-CO₂
（国土交通省HPを参考に算出）



岐阜県内の1世帯の二酸化炭素排出量は年間約3.3t-CO₂

（出典：岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画令和4年度報告書）

※1「カーボン・クレジット」とは、企業が森林の保護や植林、省エネルギー機器導入などを行うことで生まれた二酸化炭素などの温室効果ガスの削減効果（削減量、吸収量）をクレジットとして発行し、他の企業などとの間で取引できるようにする仕組み

※2「脱炭素社会ぎふ」とは、温室効果ガス排出量が実質ゼロとなり、気候変動の影響に適応した持続可能な社会

※3「カーボン・オフセット」とは、自らの日常生活や企業活動等による温室効果ガス排出量のうち、削減が困難な量の全部又は一部を、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減や森林の吸収量で埋め合わせること

（出典：岐阜県地球温暖化防止・気候変動適応計画（令和5年3月改訂））



“ぎふの木”使います!

— 岐阜県木の国・山の国県産材利用促進協定締結者のご紹介 —



岐阜県では、「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、事業者が県と協定を締結し、県産材の利用を促進する構想の実現に向けて連携して取り組むことで、脱炭素社会の実現や循環型社会の形成、地域経済の活性化を目指しています。

令和5年7月27日に第1回目となる協定締結式を執り行い、15事業者(14協定)と協定を締結しました。その各協定締結者のご紹介シリーズ第2弾です。

岐阜信用金庫 (岐阜市)

ホームページ <https://www.gifushin.co.jp>



<今までの取り組み内容>

岐阜信用金庫 付知支店は2015年に新築建て替えを行いました。店舗内ロビーと応接室床材に地元木材である岐阜県産の東濃ヒノキを活用し、温かみのある店舗とすることができました。



<今後の取り組みとして>

今後建て替え等の計画がある際は、内装材に岐阜県産の木材を使用する予定としています。

岐阜県木材協同組合連合会 (岐阜市)

ホームページ <https://gifu-mokuzai.jp>

<今までの取り組み>

- 木材利用を推進するための普及・宣伝
- 会員等への関連諸制度や技術の紹介
- クリーンウッド法と連携した合法木材の認定
- 木質バイオマス燃料の認定
- JAS材の検査及び監査
- 木材を利用した新工法等の実証試験
- 非住宅木造建築物の相談窓口の設置

以上のような事業により県民の皆さんの信頼を得た県産材の利用拡大に努力してまいりました。

展示会での木工教室



<今後の取り組みとして>

木製品を利用することで長期にわたり炭素を貯蔵できること、他の材料を木材に置き換えることで二酸化炭素の排出を大きく減らすことができることを、多くの皆さんに理解していただきながら県産材の利用を推進します。また、地域材の利用は運送時の二酸化炭素の排出やコストの削減につながるため、木材生産者との連携を強め、地域の振興、快適な街づくりに貢献してまいります。



「床斜め張り」の強度試験



令和5年1月に設立された「ぎふ森のある暮らし推進協議会」から「遊び」「学び」「健康」などに森林を活用する「森林サービス産業」に取り組む会員の活動をご紹介します！

「森林サービス産業」により、山村地域に新たな雇用と収入機会を創出することが期待されています。

第1回 「トヨタ白川郷自然学校」



どんな活動をしているのですか？

当校は白川村の自然の中で「人づくり」を行うところです。ここでいう人づくりとは子どもたちを育むことだけでなく、大人が自分の心身をメンテナンスすることも含まれています。自然のことを全身で体感する原体験や、自然の不思議さ面白さに触れる知的活動、さらに自然の中でのリフレッシュ活動や健康増進活動、そして自身の生活を見つめ直しサステイナブルな社会づくりに貢献する未来志向活動などを提供しています。

敷地は172haでほぼ全域が山林です。100人までの宿泊施設があり、夕食はフレンチを提供。大浴場には温泉を引いています。合掌家屋も所有しており文化体験の拠点となっています。

子ども向けの取組で代表的なものは子どもキャンプ。キャンプごとに昆虫や恐竜、登山などのテーマを設けています。親元を離れ見ず知らずの仲間と過ごすキャンプは、子ども達を大きく成長させます。特に2週間の長期キャンプでの変化は目を見張るものがあります。

ご家族やグループでのご利用時は、世代を超えて楽しく自然のなかで過ごすメニューが人気です。ガイドが案内する森の散策、森や畑から素材を採取するピザづくり、溪流でのイワナつかみと焼き魚体験、夜の森を無灯火で歩くナイトハイクなどが人気です。

修学旅行や企業研修なども、年間を通じて受け入れています。特に企業研修では、登山を活用したグループセッションが人気です。また近年は、社員の健康増進やメンタルヘルス予防の取組として、クアオルト健康ウォーキングを活用することも増えています。



【豊かな森林に囲まれた施設】



【健康増進は社会課題のひとつ】



【原体験は未来を育む】



今後の「森林サービス産業」への期待を教えてください！

岐阜県が、森林サービス産業の先進地として知れ渡れば良いと思います。しかしその一方で森林サービス産業という言葉が広がることよりも、これによって森と一体になっている各地域が元気になることが大切だと思います。

- ホームページ トヨタ白川郷自然学校 <https://toyota.eco-inst.jp/>
- 連絡先 TEL : 05769-6-1187 mail : info@eco-inst.jp

ぎふ森のある暮らし推進協議会では、県内で「森林サービス産業」に取り組んでいる/取り組もうとしている方を会員として募集しております。詳しくは下記までお問い合わせください。

TEL : 058-272-8472 メールアドレス : c11513@pref.gifu.lg.jp



ぎふ森のある暮らし推進協議会について

木材産業DXアドバイザー派遣事業のご紹介

現在、岐阜県では、林業・木材事業者の事務の効率化、生産効率の向上、情報共有を目的に、DX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組む事業者を支援しています。DXの取組みを検討している林業・木材事業者の方を対象に、DXの専門家であるアドバイザー（ITコーディネーター等）からアドバイスをさせていただきます。「DXに興味があるが何をしたらいいかわからない。」「DXに取り組んでいるが、アドバイザーから話を聞きたい。」等DXについてお悩みがありましたら、ぜひ本事業の活用をご検討ください。

費用 無料（アドバイザーの報酬費、旅費については県が負担いたします。）

申込期限 令和6年1月末（予算額に達し次第受付を終了させていただきます。）

●お問い合わせ先：岐阜県林政部県産材流通課加工流通係 058-272-8486（直通）

保安林制度の概要

■ 保安林とは

森林には、水を蓄え洪水を防止する機能、土砂の流出や崩壊を防止する機能、森林浴や森林レクリエーションにより心身をリラックスさせる効果など、様々な働きがあります。このような森林の持つ機能を特に発揮させる必要がある森林を森林法に基づき保安林に指定しています。

■ 保安林の種類

保安林は、指定の目的によって17種類に区分されています。
そのうち、岐阜県内にある保安林は次の9種類です。

- 水源かん養保安林
- 土砂流出防備保安林
- 土砂崩壊防備保安林
- 干害防備保安林
- なだれ防止保安林
- 落石防止保安林
- 保健保安林
- 風致保安林
- 魚つき保安林



水源かん養保安林

■ 保安林の行為制限

保安林では、森林の働きを維持するために次のような行為が制限されており、違反すると法律により罰せられる場合があります。

- 立木竹の伐採、立木の損傷、家畜の放牧、下草・落葉・落枝の採取、土石・樹根の採掘、開墾その他の土地の形質の変更
※詳しくは最寄りの県農林事務所又は県庁森林保全課森林管理係へお問い合わせください。

岐阜県には約42万haの保安林がありますが、この保安林を守っていくことが私たちの生活を守ることにもつながります。保安林の適正な管理にご協力ください。

●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線(4412または4413)森林保全課森林管理係まで



岩本さん

～私の中にある愛～

飛騨高山森林組合

いわもと

めい

岩本 芽依さん

今回は、岐阜県森林文化アカデミーを卒業後、飛騨高山森林組合に就職し、森林教室や森林づくりの提案、実践する森林施業プランナーになるべく活動している岩本芽依さんを紹介します。

森林に関わることになったきっかけは？

子どものころから自然が好きで、地元の高校を卒業後、美濃市にある森林文化アカデミーに入学しました。

森林文化アカデミーでは、林業を基礎から学び、造林、育林、測量、森林調査、チェーンソー操作など豊富な実習などで森林技術を身に付けました。

日頃の業務内容は？

就職してから3年目となり、主に森林管理や補助金申請業務を担当しています。

今年の4月から南支所に異動になり、現場管理の仕事をさせて頂く機会が増えました。測量や調査、森林所有者に対して間伐等の施業の提案を行っております。まだまだ知識や技術が未熟なので先輩の姿を見ながら、日々学ばせて頂いています。早く一人前のプランナーになれるよう頑張ります。

また、小・中学校での森林教室や、乗鞍岳ガイドなども行っています。乗鞍岳の森

林限界を超えた高山世界は生まれて初めてで、見たことのない風景に感動！でした。



実際に働いた感想は？

飛騨地域の山は、急傾斜で雪も多く、最初は歩くだけで大変でしたが徐々になれました。先輩や仲間を支えて頂きながら1つ1つの仕事に責任を持ち、日々の業務に専念しています。

私は、地元の自然が大好きです。地元の環境を守り災害から地域の方々の生活を守ることに携われており、やりがいを感じています。

森林所有者と話すことが増えて、山に対する想いが熱い方々が多く、学生の頃よりもさらに森林に携わるこの仕事が好きになりました。

やってみたいことは？

「林業は過酷で大変」な仕事です。

仕事と生活が充実した、若い人が快適で働きやすい職場環境を作りたいです。そんな思いに少しでも近づけるよう「ワークルール検定」などの資格を取得していきたいです。



働くたくさんの方々の仲間が少しでも増え、林業が地域社会、暮らし、環境を守り、変えていける魅力があることが伝えられるとうれしいかな。

今後の目標は？

地域の方から信頼される施業プランナーになりたいです。何か困った事や相談したいことがあったら頼って頂ける人材になれる様、頑張ります。

長期的視点にたった地域の森林づくりが求められている中、飛騨地域の森林整備推進の牽引者の一人として、地域林業の発展のため活躍されることを期待しています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 05771331111内線491

飛騨農林事務所 林業課まで



文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

朝晩冷え込む季節、茂った葉に隠れてなかなか見つけられなかったウスタビガの繭が、落葉とともに目立つようになります。

ウスタビガ (*Rhodinia fuxax*) の繭は淡黄色〜濃緑色と変化があり、この色の違いは幼虫が繭を作る時の日光の強さや周辺の状態が影響するとされます。

繭の形は上部が直線的にジッ

パーで閉じたような形態で、平らな部分を押しとパツと口が開きます。下部はすぼんでおり、底には水抜き穴がついています。

ウスタビガという和名は繭の形に由来します。繭の壁面全体が薄いため、提灯を意味する「手火」、また足に履く「足袋」に似ているとして、漢字で「薄手火蛾」とか「薄足袋蛾」と記されます。

面白いことに、ウスタビガの成虫は10月下旬から11月に羽化して、昼間は落葉途中の雑木林の中を、夜は街灯周辺で活動するようになります。

雄成虫の翅は黄色がかった赤褐色で、触角は交尾する雌を探しやすいよう羽毛のような楕円形をしており、一方、雌は翅が黄色で触角は貧弱です。

日本産ヤママユガ科の成虫は、雌雄ともに口吻が退化していて餌をとることができません。成虫の多くは僅か10日ほどの寿命で、短

時間に効率良く交尾相手を見つける必要があります。このため雌は腹部の先端から匂い(性フェロモン)を出し、雄は大型の触角で雌の居場所を突き止め交尾するので

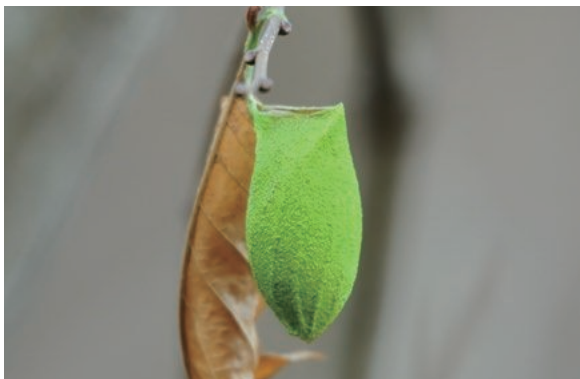
ウスタビガの幼虫はなかなかの役者で、食樹木のクヌギやコナラの葉の形によく似ています。また体色は全体的には緑色ですが、体の側面の気門下線を境に、背側は黄緑色で腹部は深緑色に分かれます。幼虫は樹上でぶら下がっている状態が多いため、腹面が上で背面が下となり、葉の表裏の色が違うように緑色の濃淡の違いを擬態しています。

特徴的なのは4齢幼虫・5齢幼虫・前蛹の体に触ると、前胸と中胸の間を擦り合わせて「キューキュー」と音を出すことです。

最近では「蛾」と言うだけでなく、多くの人たちから「気持ち悪い」などと一方的に毛嫌いされてし

まいますが、一昔前にはカイコガ (*Bombyx mori*) を利用した養蚕が日本の農家を支えていました。

野生の蛾は繁殖率が低く、近年ではなかなか見られなくなりましたが、晩秋の森でウスタビガの繭を見つけたら、こうした蛾をいづまでも見られる自然を引き継げるように何か行動を起こして欲しいものです。



ウスタビガの繭



山のおじまむし



—新種のゾウムシ発見、そんなこともあったな—【第388回】

自然学総合研究所 野平 照雄 ● Teruo Nohira

9月11日(月)午前9時。スマホを見たら県職先輩のT氏から電話が入っていた。日付は昨日の午前10時。T氏には久しく会っていない。何だろう。ひょっとしたら不幸な話ではないか。そんな気がした。すぐに電話。するとT氏の声。「岐阜新聞読んだよ。それにしてもすごいね。どこに元気があるの……」。いろいろ話をした。その時「また物忘れ病がでた」と自戒。というのは8月中旬に岐阜新聞の取材を受け、その記事が8月11日に載ると聞いていたからである。どんなことが書いてあるのだろう。自分のことなので早く読みたかった。コンビニへ行った。ところがコンビニでは、当日の新聞を売るだけで、残りはすべて返却するという。別のコンビニでも同じであった。つまり当日の新聞しか購入できないのである。近所の人に聞いてみたけど、どこにもなかった。困っていた時、助け舟?。知人が掲載された記事をスマホで送ってくれたのである。その記事を読んで「新聞記者はすごい。まさに文章のプロだ」と思った。午後になったら新聞をいただいたり、電話があったりした。この時、新聞の報道力、その効果は大きいと痛感した。

× × × ×

当初、岐阜新聞では自宅の標本室で取材をしたいとのことであった。しかし、部屋は足の踏み場がないくらいぐしゃぐしゃ。私は固辞した。取材を受けないとも言った。それで山林協会で取材を受けることになったが今となっては良かったと思っている。副会長が私の忘れていたことを調べてくれたからである。記者は女性。40歳前後に見えた。穏やかな声で「あなたはこのシリーズを長く続けてみえますが、文章を書くのが好きなのですか」。思いもしない質問だったので、「大嫌いです」。記者は笑み。それからは新聞記者の得意な文章の話になった。私は、初めころは原稿を提出すると、審査委員から「よく理解できない。書き直し」と厳しい返事が来た。これが毎回続いたので、原稿を書くのが嫌というか、怖くなってきた。それがあるとき、「今回はよくできているよ。書くコツが少しわかってきたようだな。期待しているよ」と返事が来た。嬉しかった。胸が熱くなった。今思えばこの厳しい編集者のお陰で現在まで書き続けることが出来たのだと、感謝している。記者は虫のこと以外に、家族のこと、趣味、好きな食べ物などいろいろなことを聞いて、メモをしていた。これで記者はどのようにまとめるのか興味深かった。それが誰が読んでもわかるように書いてあった。「あの雑談のような話から、このような記事が書ける」。さすがプロだと痛感した。

× × × ×

取材が終わった後、私は記者に「毎日、毎日文章を書いていて嫌になることはありませんか」とたずねた。私自身、高齢に

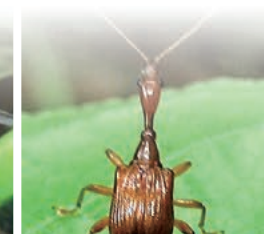
なってから書くのが嫌になってきたからである。「ありません。仕事ですから」と記者。「仕事か。なるほどな—」と思った。そういえば、私の若いころは書くのが嫌ではなかった。これは仕事として書いていたからだ。そんな気がした。それが歳とともに嫌になってきた。止めようかと思う日々である。しかし、長年続けてきた山虫をやめるのはさびしい。楽しみにしている人もいるからである。それでこの原稿は「私の仕事」、それも「最後の仕事」と決めて書き続けようと思っている。記者からは良いことを聞いたと感謝している。

× × × ×

私は今までに何回も新聞の取材を受けたことがある。その記事は保管しているが、多くは紛失してしまった。そこで今回の記事は本誌に載せておくことにした。こうすればいつまでも残るからである。その記事は次の通り。

虫と森林の魅力を発信

虫と森林に携わり60年。県山林協会が道の駅などに置く月間機関誌「森林のたより」の連載「山のおじまむし」は1987年に始まり、最新号で386回を数える。文章を書くのはそれほど得意ではなく「こんなに長く続くとはい」と言うが、昆虫の知識はもちろん、近年では自身の子や孫とのエピソードなどもつづり、人柄がにじむ、と愛読者も多い。高山市に生まれ虫捕りで遊んだ幼少期。県林業試験場で森林病害虫獣を研究、成果を評され林野庁長官賞や県知事賞を受けた。ゾウムシに魅了され、国内に生息するだけで千を超えるうちの7種を発見。「ノヒラカレキゾウムシ」など自身の名を冠したのも。体長数ミリのゾウムシを顕微鏡で観察、新種に出会うと「見たことない、とピンとくる」と語る。『害虫』などいない。みな自然の一員としてそれぞれの働きをしている」としみじみ考えるようになったのは最近のこと。「虫から教えられたことがたくさんある。自然界の奥深さを伝えたい」。連載執筆とともに、まだまだ虫を追い続ける。



『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

6

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

岐阜県では、森・里・川・海での自然体験や保全活動を通じて、流域のつながりや環境問題について親子で考え、環境にやさしい行動を学ぶ環境学習ツアーを夏・秋・冬コースで計15回実施する予定です。

令和5年7月～9月に夏コースを8回実施し、計247名の方に参加いただきました。その中から2コースについて紹介します。

脱炭素社会から始まる
令和5年度
清流の国ぎふ
森里川海親子体験ツアー
つながりLINK

REBORN

夏コース



水生生物の観察(R5.8.27)

気分は大学生♪大学生と一緒に絶滅危惧種について学んでみよう！「絶滅危惧種ヒメコウホネ」見学と岐阜大学キャンパス内でなぞときクイズラリー

コース概要

- 「絶滅危惧種ヒメコウホネ」(植物)の観察
- 岐阜大学キャンパス内で大学生と一緒になぞときクイズラリー

感想

- ・色々な魚がいて、水の温度が上がると今まで棲んでいたところに棲めなくなってしまうことが分かりました。
- ・今、地球温暖化が進んでいて、人間だけでなく他の生き物にも影響していると知り、自分達一人ひとりができることをする事が大切だと学びました。



箱メガネでの長良川調査(R5.9.2)

清流長良川あゆパークで長良川を調査してみよう！
鮎のつかみ取り体験と箱メガネで水生生物観察会

コース概要

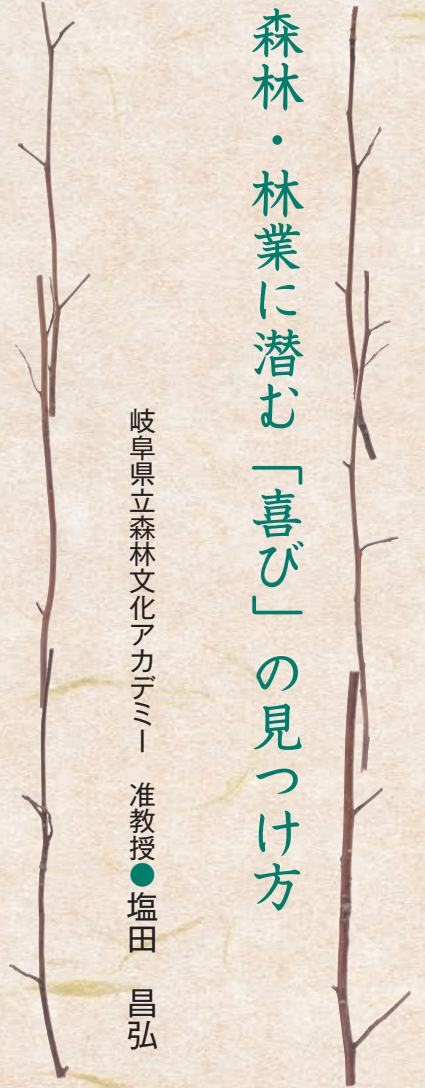
- 鮎のつかみ取りと串うち体験
- 箱メガネで川の中の魚を観察し、長良川を調査

感想

- ・岐阜の川はきれいで、長良川の鮎は世界でも自慢できる魚であることを学びました。
- ・鮎を素手で掴み、それを串うちさせてもらい、子どもはびっくりしていましたが、命を頂くことを学びました。

森林・林業に潜む「喜び」の見つけ方

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 ● 塩田 昌弘



時、意識的に行った作業は、自分では見えていない「現実」を、関係者の言葉から、ただ素直に書き留めてみることでした。これが「問題」を明確に共有することにつながり、解決への流れができました。

「現実」は、同僚やエンドユーザー、後工程の方の何気ない所作の中など、他者の中に隠れていることがあることを知りました。

さて、私が今整理したいと思っている「理想」と「現実」は、森林作業道についてです。「理想」は、その道があることで、普通に森林に通え、通う人が山の魅力を発見し、森林の整備が進むこと。これについて「現実」を見つめ直し、今の自分にできる森林への恩返しを模索したいと思っています。皆さんにとって、森林作業道、どんな存在になっていますか、ぜひ教えてください。

森林・林業に携わる中の「喜び」どんな時に感じていますか？そして、その喜びは、継続していますか？

私は、今までログハウス職人、素材生産現場の作業員、森林管理会社の技術者という立場で計23年、木材や森林に関わる仕事に就いてきました。

思い起こすと、心躍る喜びを感じた瞬間が何度かあり、その瞬間のおかげで、今も森や木に感謝しながら働けているのだと思います。

20代、短く伐った丸太や角材の元と末を見分けたくて、山に入り木を覗いていた時、節で見分けられるような気がして仮説を立て、製材しながら、その確からしさを発見した時のこと、報告すると、元末をそろえる時の迷いが一つ消えると、返ってきた同僚の笑顔。

30代、広葉樹造材後の残材の多さに

もったいないを感じていた時、エンドユーザーが求める最終製品の寸法と、後工程の製材作業を知った上で、造材する機会に恵まれた。曲がった広葉樹を目の前に、理想は直1・6m、最短尺なら1・2mと計算し、チェンソーを回した瞬間、造材した丸太と重なって見えた、エンドユーザーの笑顔。

森林管理の仕事に就いて一年目に感じた「現場で働く人は一年中働けるのに、なぜ、年間を通して事業発注しないのか？」長年、課題に思い続けていたのですが、年間を通して事業発注するメリットを、分かり易く伝えられる数字を思い付き、関係者と共有することで、解決への道筋が見えた40代の瞬間。

どれも、些細な瞬間ですが、私の心

は弾みました。そして、これらの瞬間のおかげで、今まで森林・林業に関わる仕事を続けてこられたと思っています。

なぜ、あんなに嬉しかったのか？先の例の共通点は、「自分の変化（成長）」「効率の向上」そして「他者の笑顔」でした。

一方、決定的な違いもあって、前2例は、好奇心のままに動いた偶然の産物。最後の例は、掴みに行った「喜び」でした。

「問題」を解決するために必要なことは、「理想」と「現実」のギャップに潜む「問題」を顕在化し、解決できる課題を一つ一つ実行すること。よく知られた手法ですが、私はこの「現実」を観るのが苦手です。思い込みが邪魔したりします。ですので、最後の例の





ぎふ木遊館通信



ぎふ木遊館では、木製大型遊具や木のおもちゃで楽しく木にふれあってもらうこと以外に、土日・祝日を中心に、季節に合った遊びや木のものづくりなどの木育プログラムを開催しています。

今回はその中の「葉脈標本を焼き物で作ってみよう」と「わらべうた産後ダンス～杉に囲まれて～」の2つをご紹介します。

葉脈標本を焼き物で作ってみよう

講師はぎふ木育協会の大野裕之さん。採取した葉っぱの葉脈を粘土に写し、焼き物を作っていきます。陶芸家でもある大野さんの“陶芸”と“木育”どちらも楽しめる贅沢なプログラムです。

最初に今日の流れや葉っぱを採取する際の注意事項を聞いて、いざ葉っぱの採取へ出発!! 樹木の観察を楽しみつつ、いろんな形や大きさがある葉っぱの中から、皆さん悩みながら、好きな葉っぱを選んでいました。

木工室へ戻って、粘土をこねて、どのように葉っぱを並べようか楽しみながら考えて、葉脈を粘土に写していきました。

葉脈標本は、講師の大野さんが焼き上げ、2か月後にお渡しとなります。出来上がった葉脈標本と2か月後のぎふ木遊館の樹木を見比べて、季節の移ろいを感じていただけるといいなと大野さんは話されていました。

大野さんの話は樹木の話だけではなく、そこに関係している虫の話や、陶芸で使う土の話もあり、いろんなことが木育と関わっていると気づかせてくれる素敵なプログラムでした。

参加者からは「木遊館にある樹木の事を学びながら制作できて良かった」「土ができる工程も知ることができて良かった」等感想をいただきました。



樹木のことを学ぶ様子



葉脈を粘土に写す作業



葉脈標本の完成品

わらべうた産後ダンス～杉に囲まれて～

講師は NPO 法人岐阜県木育推進協議会の三宅一乃さん。赤ちゃんを抱っこしたお母さんがわらべうたに合わせて体を動かします。

赤ちゃんひろばの無垢でやわらかなスギのフローリング等、木に囲まれた癒しの空間でリフレッシュできる「わらべうた産後ダンス」は毎月人気のプログラムです。

始めに抱っこ紐で赤ちゃんを抱っこします。少しずつ練習をしながら、わらべうたに合わせてダンスをします。赤ちゃんはゆらゆらとしているうちに心地よい眠りについていました。お母さんたちも忙しい日々を過ごされ、普段あまり運動できていないとのことで、「わらべうた産後ダンス」で体を動かすことで気分がリフレッシュでき、終わる頃にはおだやかな表情をされていました。

講師の三宅さんの優しい物腰も相まって、終始ゆっくりとした優しい時間が流れており、無垢のスギの温かみのある赤ちゃんひろばに合った親子向けのプログラムでした。

参加者からは「母子共に気分転換ができて良かった」「久しぶりに体を動かすことができて良い運動になった」「参加者と交流することができ、ママ友ができて良かった」等感想をいただきました。



ダンスを楽しむ参加者



交流を楽しむ様子



お母さんもお子さんもリラックス♪



やがてみんなの森になる

morinos

連携プログラム紹介!!

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（愛称morinos）で実施している連携プログラムについてご紹介します！

<映画「自由な学校」上映会&「自由な場づくり」のためのワークショップ>

morinosでは、野外保育・教育への機運の高まりを受け、指導者育成の一環として、教育的なプログラムも開催しています。近年、保育に自然を取り入れようとする動きが出てきていることもあり、今回は、老舗フリースクール“自然スクール「トエック」”の方を講師にお招きし、みのインタープリタークラブ（M.I.C）との連携プログラムを開催しました。

今や全国からの移住入学者急増中の徳島県阿南町にある“自然スクール「トエック」”。1日目は、田んぼの中の自由な学校を卒業した斎藤千夏さんが自ら監督となり、母校「トエック」の人々を撮影したドキュメンタリー映画「自由な学校」の上映会。2日目は、「トエック」を40年近く牽引してきた代表の伊勢達郎さん、中本桂子さん、渡邊有紀さんを講師にお招きした、「自由な場づくり」のための基本となる安心安全な場づくりのためのコミュニケーションワークの研修会。2日間に渡る贅沢なプログラムを開催しました。

上映会には、80名が参加。自然いっぱいの中、自分のペースで「あせらず、欲張らず」やりたい事をやる。遊びが学びとなり、学びが遊びとなる。教育って学校ってなんだろうと考えさせられるものでした。しかも今回は、「出張とえっくらじお」として、ふりかえりの様子をそのまま公開型でラジオ収録してしまおうという、新たな試みに挑戦しました。（「トエック」では、「とえっくらじお」という毎月2回1時間ほどの時間で、様々な質問に答えていくネットラジオを配信しています。）



上映会の風景



上映後の「とえっくらじお」収録風景

ワークショップは、通常は2~3日くらいかけてやるような研修を、ギュッと凝縮した形での開催。朝9時半から夕方17時ごろまでと、なかなかハードではありますが、これほど贅沢な講師陣での開催は滅多にないと思われたのでしょうか、40名を超す方々が参加してくださいました。

午前中は、伊勢さんからのレクチャーとワーク。「過不足のない関わり方」「共感」「聴く」ことについてお話を聞き、会話をキャッチボールに見立ててのワークを行いました。午後からは、「現場の悩みをリアルに体感」「聴くワーク（応答練習）」「グループカウンセリング」の3チームに分かれての時間。ほとんどの参加者が現場であったり、子育て中であったりするので、まさにリアルな課題を抱えての参加。それだけに深い学びや気づきがあったようです。

今回の上映会やワークショップで感銘を受けた人が、岐阜県内で新たな動きを生み出してくれる。なんてことがあったらうれしいです。



ワークショップの風景

morinos HPでは、こうしたプログラムから日常風景まで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、動画YouTubeをご覧ください。

ホームページ <https://morinos.net>

開館時間 10:00~16:00

YouTube 検索「morinosチャンネル」

定休日 毎週火・水曜日



morinosHP



YouTube
「morinosチャンネル」

中津川市立福岡小学校

中津川市福岡1番地22



施設全景

○ 施設の概要

事業年度	令和4年度
事業主体	中津川市
構造 延床面積	木造(一部鉄骨造) 地上2階建て 3,944㎡
施設用途	小学校
木材使用量 使用樹種	1124.69㎡(うち県産材使用量946.24㎡) ヒノキ、スギ
全体事業費	1,667,490千円(建築主体工事)
助成額	国補：558,354千円(公立学校施設整備費負担事業) 95,703千円(学校施設環境改善交付金事業) 県補：30,000千円(木の香る快適な公共施設等整備事業) 4,620千円(ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業)
設計者	株式会社石本建築事務所
施工業者	中島・岡山特定建設工事共同企業体 ミリオン電工株式会社
工期	令和3年9月22日～令和5年7月7日

普通教室

児童が使う学習機の天板は、中津川市産材のヒノキを活用しており、「ぎふの木で学校まるごと木製品導入事業」を利用し、導入しました。



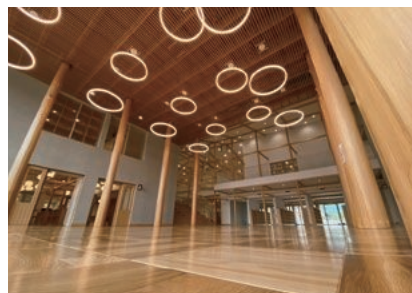
メディアの森

施設の経緯

福岡小学校は、福岡地域内の複式学級の解消、また、国が示す義務教育における適正な学級・学年数の確保を主な目的として建設しました。

岐阜県産木材・中津川市産木材をふんだんに使用し、木の香りが漂う、あたたかみのある校舎です。

校舎は、進学先である中学校に隣接しており、渡り廊下で繋がっています。小学校と中学校の交流として、新校舎には家庭科室を整備しておらず、授業の際は中学校の家庭科室を利用します。



多目的広場

学校のシンボルツリーは、樹齢50年を超える地元産ヒノキです。通し柱が8本立ち、天井までのびています。

大階段

1階と2階を繋ぐ大階段は、段差の異なる2種類のつくりです。合唱をする壇上として活用することができます。



ここに注目!!

1階と2階にあるメディアの森は、学習成果の展示・発表や地域の歴史・文化の展示など、学年間の交流や学びのスペースとして活用できます。

利用者の様子

ぎふの木の香りとあたたかみにつつまれた校舎の中で元気に楽しく生活を送っています。

■問い合わせ先

中津川市教育委員会事務局施設計画推進室
TEL 0573-66-1111



図1 黒トリュフ

国産黒トリュフを接種したコナラを 植栽して七年目の状況

森林研究所 ● 水谷 和人

背景と目的

トリュフは、世界三大珍味で知られる高級食材で、ブナ科樹木などに共生して菌根を作る地下性のキノコです(図1)。ヨーロッパなどでは一部の黒トリュフで感染苗木による人工栽培が行われています。我が国にもトリュフが自生しますが、国内で採取されたトリュフの栽培は行われ

ていません。そこで、簡易な方法で短期間に国産トリュフの人工栽培化を図るため、黒トリュフを接種した大きなコナラ苗木を苗畑に植栽しました。ここでは、植栽後七年目のコナラの状況について紹介します。

コナラの植栽と四年目の状況

平成二十八年四月と七月に、市販の二年生コナラ苗木(苗高約八十cm)の根を、国内で採取した黒トリュフの胞子懸濁液に浸漬した後、苗畑に設置した石灰施与区と無施与区に各十四本植栽しました。

植栽後四年目の結果は、森林のたより806号に紹介しましたが、黒トリュフの菌根は石灰施与区にのみ形成しました(表1)。根にはトリュフ

以外の菌根も混在しましたが、栽培化への第一歩となる菌根形成に成功しました。

植栽後七年目の状況

植栽後七年目のコナラは、大きなもので樹高6mを超えました(図2)。七年目の令和五年八月に石灰施与区で、直径約5cm、深さ二十cmの穴を各一ヶ所掘って土壌を採取し、その中に存在するコナラの根を顕微鏡で観察しました。

石灰施与区の四月及び七月植栽には、いずれも黒トリュフの菌根が形成していました(表1)。採取した土壌内のコナラの根はトリュフの菌根で占められ(図3)、それ以外の菌根がほとんど見られなかったことか

ら、石灰施与区のコナラにはトリュフの菌根が安定して増加していることがわかりました。



図2 植栽7年目のコナラ

表1 コナラの黒トリュフ菌根形成

試験区	植栽4年目	植栽7年目
石灰・4月植栽	○	◎
石灰・7月植栽	○	◎
無施与・4月植栽	×	未調査
無施与・7月植栽	×	未調査

・菌根形成：×なし、○あり、◎たくさんあり
・H28年4月及び7月に苗木を各14本植栽(1試験区0.54㎡)



図3 トリュフ菌根の形成状況
根棒状の根がトリュフの菌根(矢印)

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-331-2585

森林研究所まで



可茂地域における広葉樹林整備について



■可茂農林事務所 林業課
林業普及指導員 井田 琢也

はじめに

当管内は、昭和初期からの優良な原木しいたけ生産地であり、現在も白川町や川辺町を中心に原木しいたけの生産を生業とする生産者が多数おられます。

当所は、令和2年度に「可茂地域広葉樹林整備指針」を作成し管内の広葉樹林造成を進めています。今回は、広葉樹コンテナ苗の生産や令和4年度の広葉樹植栽の現状について報告します。

広葉樹に関する地域の状況

主伐・再造林の取組みが当管内においても徐々に進んでいるなか、原木しいたけ生産者によるしいたけ原木(以下、「原木」という。)生産のための広葉樹林造成や人家等への日陰防止対策、ヒノキ等の優良材生産のようなきめ細やかな育林作業を敬遠する森林所有者が、植栽後の手間を極力かけない森林造成として広葉樹(コナラ)を植栽するケースが増えてきました。

原木は、東日本大震災に伴う原発事故被害の影響により価格が高騰し、入手困難な状況が続いており、新たな原木入手先を求めるとともに、管内における原木調達が求められるようになりました。

このような状況の中で、里山再生という視点から、美濃加茂市、可茂森林組合、加茂山林種苗生産

組合が取り組む広葉樹コンテナ苗の育成・活用と、原木林造成のための植栽研修の取組みについて紹介します。

広葉樹コンテナ苗づくり

可茂地域では、美濃加茂市が中心となり、「みのかも定住自立圏共生ビジョン」を策定し、その重点事項に「里山再生プロジェクト事業」を位置付け、広葉樹の植樹など里山林を整備する事業を推進しています。

これまで、当管内で使用される広葉樹苗は他県産(長野県等)の裸苗が主流ですが、当事業において、平成27年度から広葉樹コンテナ苗の製造を行い、その苗を活用して広葉樹の植栽を進めています。



アベマキコンテナ苗 9月状況



コナラコンテナ苗 9月状況

○広葉樹コンテナ苗生産状況

- ・生産者…加茂山林種苗生産組合
- ・生産場所…加茂郡富加町地内
- ・樹種…コナラ、アベマキ

概要…令和5年度で9年目となりますが、昨年頃から品質の安定した苗木が生産できるようになりました。生産工程としては、10月頃、近隣の広葉樹林にてドングリを拾い、苗畑とコンテナを使いコンテナ苗を造ります。秋頃には、苗高60〜80センチほどになり、植栽が可能となります。

✎美濃加茂市内の植栽地

- ・植栽場所 美濃加茂市三和地区
- ・植栽時期 令和5年3月

・面積 1・38ha

- ・植栽樹種 コナラ・アベマキ

・状況 現場は、ヒノキ林であった場所を約8割伐採し、植栽しています。斜面上方にはコナラがあり母樹として残しています。

本年7月末に現地調査したところ、獣害対策として設置した幼齢木保護材から梢端部が出ている苗木もあり、全般的に成長が早く、苗木の成長を阻害する下層植生が回復する前に植栽した木が大きくなることが推察されるため、現時点では下刈りの必要性がないと考えています。これは、苗木を育てる際の土、肥料がヒノキコンテナ苗と同じものを使用しており、肥料効果が高いためと考えていま

す。
今後、経過観察しコナテナ苗の効果を検証していきます。



美濃加茂市内の植栽地 R5.6状況

広葉樹植栽研修

広葉樹植栽を普及するため、管内で植栽を多数施工している(株)楓組の柘植社長と森林研究所の片桐専門研究員を講師に招き、令和5年4月に研修会を開催しました。

- ・植栽地：加茂郡白川町黒川地内
- ・対象：管内の森林組合、植栽事業者等
- ・植栽苗：コナラコナテナ苗
- ・獣害対策：3種類の幼齢木保護材を使用

概要：専用器具を使い植栽するため、従来の裸苗による植栽に比べて作業効率が良く、参加者からは広葉樹コナテナ苗を望む意見が多数ありました。また、幼齢木保

護材を3種類使用し、それぞれの特徴や設置方法を学ぶことができました。今後、隣接地でコナラ植栽を行うため、その作業を担う森林技術者の方も参加し、より実践作業を重視した研修会となりました。



広葉樹植栽研修 R5.4

今後について

当地域は、しいたけ原木に対するニーズが高いことから、広葉樹植栽や広葉樹コナテナ苗の育成などへ継続して支援します。また、そこから生まれる知識と経験を「可茂地域広葉樹林整備指針」に反映し、地域の広葉樹林整備の更なる技術向上に努めていきたいと考えています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0574-1251-3111

可茂農林事務所まで

森林技術開発・支援センター きのご通信

2

GAPの実践と効果について(2)

前回は、「GAPの良い農業の実践」を、大まかに紹介しました。では、どんなことが行われているのでしょうか？極々一部をご紹介します。

◎あるきの生産者は、これまで管理者だけが把握していた生産手順を、文書にして、作業者も見られるように備えました。

その結果、作業者も手順を正しく理解し、これまでは「次はこれかな？」と気づいても管理者の指示待ちだったものが、自発的に行動ができるようになりました。

◎きのこで起きるクレームにキノコバエの混入がありますが、きのこの性質上農薬は使わずに発生を防ぐことが必要です。(キノコバエの幼虫は、きのこの菌床上で成長します。手間はかかりますが、菌床をお湯で洗って除去することが有効です。)

ある生産者は、これまで感覚的に行ってきた除去作業を、予防・観察・対応の段階に分けてマニュアル化し、作業者と共有しました。その結果、対応遅れなどが改善され、キノコバエの発生が減少したそうです。

◎工程上の無駄の改善や、生産物のトレーサビリティの構築のため

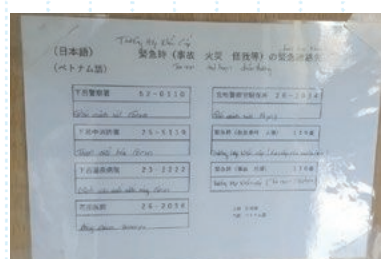
に、正しく記録を残すことは有効な手段です。

また、食品安全・労働安全などを確保するため、リスクを洗い出して、対策を留意することも有効です。

ある生産者からは、「文章にするのは、とても大変な作業だったけども、やって無駄なことは無かった。」と感想をいただきました。

生産者は、「良いきのこを消費者に届けたい」と、既に何かしら取組んでいます。

現在の取組みがGAPであるかどうか？どんな改善が今できるかの自己評価からスタートです。



緊急時に、誰でも対応が取れるように、外国から実習生がいる農場では、緊急連絡先を母国語でも表示しています。

●詳しい内容を知りたい方は

TEL 0575-1351-2535

森林文化アカデミー 技術普及係まで



小林式誘引捕獲法の 現地検討会を開催

ニホンジカによる樹木の食害や剥皮被害は、確実な再造林や適切な森林整備の実施に大きな支障を及ぼしています。また、こうした被害が進むと下層植生が消失し、土壌が流出するなどして森林の有する公益的機能の発揮に影響を与えるおそれがあります。

中部森林管理局では、こうした森林被害の低減に向けて、地域の自治体や関係者と連携しながら、捕獲と防護の両面で対策に取り組んでいるところとです。

特に捕獲面での対策強化を図るため、初心者でも簡単に効率良く捕獲ができる「小林式誘引捕獲法」を管内で導入・普及していくこととして、捕獲方法の発案者である林野庁職員的小林正典氏を講師に迎え、8月28日に七宗国有林において、「小林式誘引捕獲法の現地検討会」を開催しました。

小林式誘引捕獲法は、シカが餌を食べようとして近づいた時に、前足を餌の近くに置くことや石を踏まない習性を利用して、「くくりわ

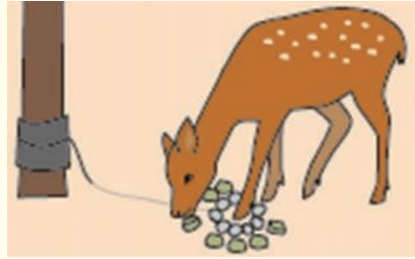
な」の周囲

に石や誘引するための餌をドーナツ状に設置し、前足がわなにかかりやすくなるように工夫すること、シカに警戒されにくく、初心者でも簡単に効率良く捕獲できる方法です。餌次第でイノシシ等の捕獲も可能になります。

小林氏は、この捕獲方法の考案・普及の功績により、令和4年度に人事院総裁賞（行政サービスや国民生活の向上に顕著な功績を挙げ、国民の期待に応えた国家公務員を表彰するもの）を受賞しました。

【小林式誘引捕獲法のメリット】

▽餌で誘き寄せて捕獲するため、けもの道にわなを設置する必要が無く、特別な技術が不要で捕獲効率が



捕獲イメージ

▽車でアクセスしやすい場所に設置できるため、捕獲後の見回り、止め刺し、運搬が容易。また、車から確認しやすいため、安全性が高い

▽けもの道以外に設置することで、クマやカモシカなどの錯誤捕獲が少ない

▽短期集中でわなを設置できるのとータルコストが大幅減
この検討会には、中部森林管理局職員のほか、県や市町村職員、猟友会員など64名が参加し、小林氏が資料を使って捕獲方法の説明を行ったのち、わな設置の実演を行いました。その後、参加者数名が実際にわなの設置を体験しました。参加者からは、くくり罠の根付けに何が使えるか、季節により効果に違いがあるのか、止め刺しの方法など様々な質問があり、たいへん有意義な検討会になりました。



小林氏によるわな設置の実演



くくりわな設置の様子



餌(ハイキューブ)

バネと踏板を土で隠し、餌を撒いて完成

今後も、この捕獲方法の普及に取り組みながら、民国一体となってニホンジカ食害防除対策等を進めていきたいと考えています。

(岐阜森林管理署)

開催日	行事名等	内容等 (概要、定員、受講料、申込期限など)	場所
			申込(問合せ)先/TEL
11月8日(水)~ 11月10日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間: 8日 学科 8:50~17:10 9日 学・実 8:50~12:00 10日 実技 8:30~17:40 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 23,870円(本代含む)(振込み) ●定 員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	8日(学科)・9日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 10日(実技) 榎木の国 土場(山県市椎倉 203-1) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
11月14日(火)~ 11月17日(金)	フォークリフト運転技能講習 受講資格 自動車普通運転免許所持者	●講習時間: 1日目 学科 8:50~17:05 学科試験 17:10~18:10 2~4日目 実技・試験 8:00~17:30 ●申 込: 開催日の20日前まで ●受講料: 32,450円(本代含む)(振込み) ●定 員: 20名(定員になり次第締め切ります。)	(学科) 伊自良中央公民館(山県市大門 850-67) (実技) ぎふ農協 旧伊自良共選場(山県市洞田 127-5) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
12月6日(水)	刈払機取扱作業 安全衛生教育	●講習時間: 学科 9:00~15:20 実技 15:30~16:30 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 11,550円(本代含む)(振込み) ●定 員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195
12月13日(水)~ 12月15日(金)	伐木等の業務 (チェーンソー)に係る 特別教育	●講習時間: 13日 学科 8:50~17:10 14日 学・実 8:50~12:00 15日 実技 8:30~17:40 ●申 込: 開催日の10日前まで ●受講料: 23,870円(本代含む)(振込み) ●定 員: 30名(定員になり次第締め切ります。)	13日(学科)・14日(学・実) ぎふ森林文化センター(岐阜市六条江東 2-5-6) 15日(実技) 榎木の国 土場(山県市椎倉 203-1) ----- 林材業労災防止協会 岐阜県支部 電話 058-275-0192 FAX 058-201-1195



コラム

先日、林野庁が開催する高性能林業機械の研修に出席してきました。5日間の研修で、機械の運転や操縦を身をもって体験でき、学び多き1週間になりました。思い返すと私が森林に携わり始めたのは森林生態学に関心をもったのがきっかけで、林業を勉強する前は森林の中に無機質な機械があることに違和感を持ったことを覚えています。今回自分で操縦し、改めて林業機械が林業を支えていることを身に染みて感じました。

それから、研修前、初見の土地で初対面の人達と生活することに身構えてしまい、こんなことを久しくしていなかったなあ。旅先のユースホテルや学生時代の異郷地でのフィールドワークなど昔のことを思い出して、どこかに押しやられていた好奇心が蘇ってきたような気がします。いろいろと収穫の多い1週間となりました。

「森林のたより」編集委員 森林経営課 比留間光子

イベント情報

12月1日発行

連載

- 山の歳時記(220)
- 山のおじやまむし(389)

清流と森と親しむ

- 森林と人を活かす知恵(131)

木と親しむ

- 岐阜県の公共木造建築(129)

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術

- 研究・普及コーナー

市況情報

その他

12月号
予定

木材市場

木材市況 県森連 岐阜・飛騨・東濃林産物共販所 単位:円(1㎡当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配	
第1833回 岐阜共販所	すぎ	3 m	16~18cm	14,500	—	→	
		4 m	16~18cm	14,000	—	→	
			20~22cm	14,500	—	→	
			24~28cm	14,500	—	→	
			30cm以上	12,700	20,800	→	
	6 m	16~18cm	—	—	→		
	10月3日	ひのき	3 m	16~18cm	20,500	—	→
			20cm以上	18,800	—	→	
		4 m	16~22cm	20,300	—	→	
			24~28cm	19,000	—	→	
30cm以上			18,700	—	→		
6 m		16~18cm	—	—	→		
第1424回 飛騨共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,000	—	↘	
		4 m	24~28cm	14,400	—	↘	
			30cm以上	12,000	—	↘	
	ひのき	3 m	16~18cm	18,000	—	↘	
		4 m	20~22cm	17,000	—	↘	
			24~28cm	18,000	—	↘	
			30cm以上	19,000	52,000	↘	
		6 m	16~20cm	25,000	—	↘	
	10月4日	ひめこ	4 m	24~28cm	14,000	—	→
			30cm以上	14,000	—	→	
5 m		30cm以上	—	—	→		
くり	4 m	24cm以上	15,000	33,000	→		
第1757回 東濃共販所	すぎ	3 m	16~22cm	14,000	—	↘	
		4 m	24~28cm	14,000	—	↘	
			30cm以上元	15,000	20,000	→	
	ひのき	3 m	16~22cm	19,500	—	→	
			24~28cm	19,000	—	→	
			30cm以上元	25,000	34,000	→	
		4 m	13cm以下	10,000	—	→	
			24~28cm	19,000	—	→	
			30cm以上元	25,000	—	→	
	10月5日	まつ	4 m	22~28cm梁	—	—	→
30cm以上元			11,000	—	→		

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ、ヒノキは相変わらず全体的に引き合いは弱い。スギ4m元木、尺上良材は、応札はあるが材の傷みを懸念し様子見にて弱含み。スギラミナ向け3m・4m材も弱含み。ヒノキ元木、尺上良材3m・4m役物取りは、様子見にて弱含み。ヒノキ3m柱取、4m土台取も弱含み。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

スギ、ヒノキは相変わらず全体的に引き合いが弱いまま。広葉樹はクリ、マクルミ、ホウ、ミズメの良材に引き合いが強い。高値はヒノキ4m×38cm@52,000円、ミズメ2.8m×36cm@43,200円、サクラ3.2m×28cm@35,000円、マクルミ4m×34cm@36,400円、クリ2.1m×44cm@39,000円。(飛騨)

ヒノキ3m柱向け(14cm~24cm)は、依然荷動き重たく弱含みでの展開。3m中目材・4m土台向け、中目材はやや動きあり。スギ4m中目、尺上元木良材は、当用買いが中心のなか買い気は上向き、価格は保合で推移。3m・4m構造材向けは市中製品価格軟化の影響を受け弱含みで推移。合板向けは、製品荷動きが鈍く弱基調、原木受入調整は継続しているが、ヒノキについては若干の動きあり。(東濃)

製品卸売標準価格 (9月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm)			等級	m ³ 当り 価格	(本枚)単価	前月 比較
		長	巾	高				
スギ	柱	3000	105	105	1等	75,000	(2,481)	→
	間柱	3000	105	30	1等	75,000	(709)	→
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	80,000	(3,528)	→
	柱	3000	120	120	特等	75,000	(3,240)	→
6000		120	120	特等	150,000	(12,960)	→	
W ウッド 材	柱	3000	105	105	国産5層	91,000	(3,000)	→
		3000	120	120	国産5層	98,000	(4,200)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場 全てKD材)

外材市況 (9月期)

単位:100円(1㎡当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	396	↗
	コースト(目荒)	425	→
米楡	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに? ~木材用語~

ツキ板

木目の美しい木材をスライサー、またはハーフローターリーで薄く剥いた2次加工向け材料。集成材、合板、MDFなどの表面に接着する。MDF:中質繊維版。各種の家具用材、造作用、建材として利用されている。

(参考)日刊木材新聞社 木材・建材用語辞典